

仲裁完全実施・人勸凍結打破 年末手当獲得・反動中曽根内閣打倒

12月統一ストを闘おう

日刊 動労千葉

82.12.10

No. 1216

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（公衆）四三三二・七二〇七

第5回定期委員会決定方針について

動労千葉は、十二月八日開催した「第5回定期委員会」で、当面する具体的闘いを取り組みについて、次の通り確認・決定しました。超反動中曽根内閣の登場でいよいよ本格化する軍事大国化・改憲、行革・生活破壊等の全面攻撃と真正面に対決し、三里塚―国鉄を基軸に一大階級的反撃をつくり出して、いこうではありませんか。10月三里塚―反戦・反核総決起↓11月国鉄決戦への突入↓12月人勸・仲裁ストライキ実現へと、情勢は大きく激突と発展を力強く開始しはじめた。いよいよ、わが動労千葉の真価を発揮し、情勢をグイグイと牽引して進む時代の到来です。12・10動労千葉総決起集会を突破口に、「第5回定期委員会方針」の実現にむけ、全職場での討論と実践をかちとっていきましょうではありませんか。

I 仲裁々定完全実施、年末手当獲得の闘いについて

戦後最悪の超反動中曽根内閣は、臨時国会を通して、国鉄労働運動の暴力的解体と官公労働者の賃金抑制を二本柱とし、公務員と公労協、公労協内部の差別分断攻撃を露骨に強行してきている。こうしたなかで、総評は10月21日の臨時大会で総評労働運動の命運をかけた闘いとして、12月ゼネスト、ストライキ委員会の設置と国会へむけた連日の大衆行動を決定し、取り組みを展開している。

動労千葉は、この12月闘争を、反撃の端緒を切り開いた「57・11ダイ改」阻止闘争をさらに前進させるものとして位置づけ、仲裁完全実施、人勸凍結打破、年末手当獲得、反動中曽根内閣打倒の12月統一ストライキ実現を目指し、次の通り闘いぬく。

1. 各支部は、今次闘争の意義についてすみやかに全組合員の意志統一をはかり、全組合員を対象とするストライキ体制を確立する。
2. 12月10日、14時より、千葉運転区において、動労千葉総決起集会を開催する。
3. 各支部は、全組合員によるワッペン闘争の徹底化をはかる。
4. 総評の提起する12月統一ストライキに積極的に参加して闘う。戦術の細部については闘争委員会に委任する。

II 現場協議制度改悪粉碎の闘いについて

現協々約改悪攻撃は、臨調答申をうけた国鉄労働運動解体攻撃の要であり、現協制度の形が変化を通じた職場支配権の当局側への奪還を狙ったものである。動労「本部」が例によって、鉄労にさえも先がけてまっ先に当局の「改訂案」通り忠実に締結し、当局の反動的攻撃に全面的に協力しているが、動労千葉は12月1日をもって「無協約」下の闘いに入っており、創



「動労千葉の真価を発揮する時代…」 挨拶に立つ関川委員長

1. 各支部は、日常的に発生する労働条件に関わる問題について「組合との交渉を経なければ認めない」体制を確立する。この場合、事故復旧作業なども含むこととする。
2. 各支部は、組合員の日常的要求や不満を従来通り解決するため全力で努力することは当然であるが、集団交渉等の実現にむけて創意的に追求することとする。
3. 右の闘いを柔軟かつ強じんを実現するために、

- ① 各級機関役員活動家は柔軟かつ強じん原則にふまえた発想と方法において闘いを密に指導する
- ② 本部との連携を密にする
- ③ 関係各労働分會との共闘を可能な限り追求することとする。

III 反合理化・運転保安確立の闘いについて

われわれは「57・11ダイ改」をぬばり強く闘うことによって一定の要員バックを勝ちとり、合理化への一定の歯止めを打ち、同時に検修合理化攻撃を先送りにさせてきた。しかし当局は、臨調答申を受けて合理化のテンポを早めてきており、千葉局においては破綻的要員需給状態と京葉線開業をかかえ、その傾向に拍車がかかることは必死である。

われわれは決意をあらたに、新採獲得、反合・運転保安闘争等を全職場から再構築していく。

1. 検修合理化反対の闘い
- ① 関係4支部と検・修分科との連携を強固にし、集団交渉など随時配置して組合要求の前進にむけ、交渉体制を強化する。

（裏面に続く）

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！

② 交渉の山場には、36協定破棄・非協力闘争などを配置して闘うこととする。

③ 国労共闘を追求し闘う。

2 内達一号改悪反対の闘いについて

① 内達一号専門委員会を委員会終了後、ただちに開催し、組合要求の確定のための討議を深める。

② 「職場討議シリーズ」(日刊)の内容で職場討議の強化をはかる。

IV 衆・参両院議員・統一地方選挙闘争について
八三年政治決戦勝利にむけて、国鉄労働者の代表として、中江顧問を船橋市議選に組織内候補として擁立することを決定し、すでに闘いをすすめている。動労千葉は、来年四月の統一地方選、七月参院選、さらには予測される総選挙について、社会党を中心に推せん候補を決定し、勝利するため組織をあげて闘う。

V 組織強化・拡大、動労大改革、国労共闘について

「五七・一一」を通した未曾有の国鉄労働運動解体攻撃に抗して、大衆的反撃の端緒が切り開かれているが、一方で動労「本部」革マルの「ファシスト」としての姿が明らかとなった。

従って、八二年末から八三年にかけての攻防は、「三里塚」「国鉄」決戦論を有する動労千葉の路線の真価が問われている。

動労千葉は、この間の闘いの成果のうえに、第一に、指導体制のマンネリ化を打破し、第二に、生き生きとした職場闘争を再構築し、第三に、新採凍結・大量退職時代下での組織強化・維持・拡大である。

具体的取り組みは、

① 動労「千葉地本」解体―動労大改革の強化
② 国労・国労組合員との共闘・連帯行動の追求

③ 全組合員が六〇才まで働き、闘う運動を職場に定着させる。

④ 本部―支部の家族組合再建に努力する。

⑤ 組合員教育活動を積極的に推進する。

⑥ 動労千葉支援基金運動の統一した取り組みを行う。

VI 財政の確立について

―省略―

VII 中江候補必勝へむけた取り組み

超反動内閣中曾根の登場とあいまって、「八三年政治決戦」は極めて重要な闘いであり、三里塚・国鉄決戦と結合し「中江昌夫」を先頭に勝利し、新たな階級闘争の高揚をつくり出さねばならない。

動労千葉は、中江候補必勝をめざし、船橋の「非核・憲法擁護・平和都市宣言」を要求する一人署名運動を提起し、船橋市民を組織化し、中江氏を代表とする「核戦争に反対し、憲法とくらしを守る船橋市民の会」を結成し取り組んできた。

「船橋市民の会」運動は、今日の核戦争の危機と政治的反動化のなかで大きな反響をよび、十二月三日現在八二二名の署名を達成した。

そして、映画「人間をかえせ」「侵略」上映会運動は延べ四〇〇名の市民を集集し、

さらに、二和公民館での上映会参加者による、米軍の下総基地使用反対決議は、大橋船橋市長をして「基地使用反対」を表明する成果をかちとつた。

これに対し、動労「本部」革マルをはじめ、右翼・日共等の「中江つぶし」の攻撃が始まっており、こうした敵対を粉碎し勝利しなければならぬ。

当面する第二次行動(十二月十三―二十九日)を全力でかちとる。